

## 平成 25 年度 第 1 回郷土文化館協議会 概要

1. 日 時 平成 25 年 7 月 17 日(水) 午前 10 時 00 分～午後 12 時 00 分

2. 会 場 郷土文化館 会議室

3. 出席者

(1) 郷土文化館協議会委員

一寸木肇委員長、奥野花代子副委員長

明石新委員、渋谷武美委員、鳥居和郎委員、中村ひろ子委員、

佐宗修二委員、西村泰和委員

(2) 市事務局側

教育長、文化部副部長、生涯学習課長、生涯学習課専門監、郷土文化館係長、

蓮見主査、大貫主事、中村主事

4. 会議の概要

新任委員への委嘱状交付、教育長挨拶、委員紹介、職員異動報告（公務のため教育長退席）に続き、議事に入った。

議事の進行は一寸木委員長が行った。

(1) 議題 1 「平成 24 年度 郷土文化館事業報告」

このことについて、まず会議資料に従って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

ア 平成 24 年度郷土文化館入館者について

委員より、学校からの団体来館者は、資料中の表にどのように組み込まれているのかについて質問があった

これについては、事務局より、展示室来館者数の「団体」の項目に含まれていること、および、年に数回、自由見学や案内見学の形で学校の団体来館がある旨を説明した。

この説明を受けて、委員より、団体来館者の数の少なさについて指摘があり、学校への働きかけが必要であるとの意見が出された。

また、これに関連して、委員より、御用米曲輪出土の瓦に関する展示案内が学校に配布されていない、との指摘があった。また、平塚や秦野の施設のほうが、実物を見られる場所として選択されているという現状であるため、自由研究の相談場所の設置およびその発信といった企画が必要である、との意見があった。

また、これに関連して、別の委員より、忙しさゆえに施設について詳しく知らない教員が多く、教員向けの研修会等の開催があるとよい、との意見が出された。

これらについて事務局より、今後は SNS など新たな媒体での広報活動に力を入れていく予定であると説明した。

また、委員から、団体入館者の所属・年齢等の区分の有無について質問が出された。

これについては、事務局から、区分は設けておらず、今後、統計の対象について検討

する旨を回答した。

この説明を受けて、委員より、データの委細解析と入館者のターゲットを明確にする必要があるとの指摘があった。また、団体入館者の分析と対策にとどまらず、実際にやってきた子供でも理解できる解説の設置といった展示整備が必要であるとの意見が出された。

#### イ 松永記念館入館者について

委員から、松永記念館の11月の入館者増について質問があった。

これについては、事務局から、「いたばし見聞楽」はじめ複数の催事を開催しているためと回答した。

### (2) 議題2「平成25年度郷土文化館事業について」

このことについて、まず事務局から会議資料に従って概要を説明した。説明後、次のような討議がなされた。

#### ア 関東大震災90年「震災はどのように伝えられたのか」について

委員から、郷土文化館協議会の日程を特別展の開催時期と合わせてほしいとの意見が出された。

また、委員から、記録写真や報道画以外の展示資料について、質問があった。

これについて事務局から、そのほかに、木版画や絵葉書、学校の日誌等の展示をする旨を説明した。

この説明に関連して、委員から、土地ごとの地質の強弱の解説など、防災・減災対策と絡めた展示はあるかとの質問が出た。

これについて、事務局から、入口付近に現在の小田原市の防災パンフレット等を展示する旨を説明した。

この説明に関係して、別の委員より、温泉地学研究所が地震の痕跡のある鎌倉の地層の剥ぎ取り標本を所持している、生命の星地球博物館の学芸員が地震に関する新書を著している、といった震災に関する近隣施設での研究事例の紹介があった。

これについて、事務局から、今後は、そういった施設や機関との更なる連携を検討する旨を説明した。

この説明に対して、別の委員より、小田原市のホームページに郷土文化館のバナーは設置されているか、との質問が出された。

これについて、事務局から、リンクはあるがバナーはない旨を回答した。

この説明を受けて、委員より、他の市区町村ホームページ上に文化施設のバナーがある事例、および文化施設のホームページ内に別の文化施設のリンクが張ってある事例の紹介があり、このような方法を用いれば、事業や施設のインフォメーションになるとの意見が出された。

#### イ 本館展示について

委員から、平成25年度の本館展示は、常設展の一部を変更したものか、それとも全体

を変更したものであるか、との質問があった

これについて、事務局より、「三つ葉葵紋軒丸瓦」・「小田原城出土の家紋瓦」の展示は考古資料室の一部で速報的な形で実施しており、特別展は文化人室全体を入れ替えて実施していると説明した。

この説明を受けて、委員から、瓦の展示と特別展は、常設展の展示替えに類するものに見えること、そのため常設展のコンセプトや展示の階層性が不明瞭となっていること、また、常設展との混在では通史的な理解が困難であること、および、新規事業の実施・新資料の紹介は重要だが展示の整理が必要であること、が指摘された。

また、別の委員から、瓦の展示期間中に、瓦を実際に手で持ってみるといった、展示とあわせた企画を実施してはどうかとの意見が出された。

これに関連して、別の委員から、展示室にステップを設置、子供向けワークショップの実施、といった次世代の育成を念頭に置いた施策が重要であるとの意見が出された。

#### ウ 郷土研究会・特別講演会・連続講座について

委員から、5月の自然探求会「磯の生物を観察しよう」について、当日は荒天であったが予備日の設定はあったのか、との質問があった。

これについては、事務局から、以前から予備日を設けていなかったこと、昨年度までは夏休み期間中の開催日程では参加が難しい方が多く、今年度は試験的に5月に開催を変更した旨を説明した。今回の参加者においては、予備日に変更となっても参加する予定だと答えた方も多かったため、今後は予備日の設定を検討する旨を説明した。

#### エ 特別展等の企画展示について

委員から、特別展等について、図録の作成・市外を含めた広報の実施状況など、その開催規模が分かるような説明がほしいとの意見が出た。

これについて、事務局から、郷土文化館特別展に関するポスター・図録は作成できず、チラシ等の広報が中心であること、松永記念館交流美術展では、ほかの秋季イベントと絡める形でポスターを掲示し、松永記念館来館の記帳者を中心にダイレクトメールを送付する予定であること、およびリーフレットを作成する予定であることを説明した。また、特別展講演は、キャパシティの大きい市民会館で開催する予定であること、および今後は広報に力を入れていく旨を説明した。

### (3) 議題3「おだわら TRY プラン」第二次実施計画の策定について

#### 【非公開案件】

討議終了後、「小田原橋親柱」を担当学芸員の案内で見学し、散会した。